



《NEWS》

お知らせ!

■第8回遺跡発表会を開催しました

7月24日(土)に佐倉市中央公民館大ホールで開催した遺跡発表会には、雨の中でしたが、250名を超える来場者がありました。今回は国立歴史民俗博物館助教授小野正敏先生に「城館の発掘が語る中世の印旛と東国」の題名で講演していただきました。来場者からは全国的な研究から見た印旛地域の城館の特徴について理解が深まった等の意見をいただき、大盛況でした。

なお、当日来場できなかった方も12月28日まで本部展示室において出土遺物を展示していますのでこの機会に是非ご覧ください。



小野正敏先生による特別講演

■シンポジウム「井野長割遺跡を考える」を開催

9月26日(日)には佐倉市教育委員会との共催事業として、志津コミュニティセンターで縄文時代の盛土遺構が現在も残る井野長割遺跡についてのシンポジウムを行いました。

当日は同じく盛土を有する県内外の代表的な6遺跡の調査担当者による事例発表や活発な討論会が行われ、350名を超える熱心な聴衆が聞き入っていました。



＜成田市＞

大竹林畑遺跡 (古墳、奈良・平安時代)

大竹井戸作遺跡 (中世)

＜佐倉市＞

吉見稲荷山遺跡 (縄文時代)

白井屋敷跡遺跡 (第6次) (弥生、奈良・平安時代、中世)

本佐倉城跡 (中世)

六崎外出遺跡 (第9次) (縄文～古墳時代)

《室内作業》

こつちもやっています!

＜本部統合事務所＞

佐倉市錦木町198-3 TEL. 043-484-0133

台方下平Ⅰ・Ⅱ遺跡 (成田市 旧石器～平安時代)

西和泉和田遺跡 (成田市 奈良・平安時代、中近世)

西和泉栗山遺跡 (成田市 奈良・平安時代、中近世)

東和泉栗山台遺跡 (成田市 旧石器、縄文、奈良・平安時代)

江原台遺跡 (佐倉市 縄文～奈良・平安時代)

太田長作遺跡 (第2次) (佐倉市 旧石器～奈良・平安時代)

井野城跡 (佐倉市 奈良・平安時代、中世)

江原塾谷遺跡 (佐倉市 弥生時代、近世)

笹目沢Ⅰ・Ⅱ遺跡 (四街道市 縄文～中世)

木戸場遺跡 (四街道市 旧石器、縄文、中近世)

松ノ木台遺跡 (富里市 縄文、古墳、奈良・平安時代)

前戸遺跡 (印西市 縄文、古墳、奈良・平安時代)

＜佐倉南統合調査室＞

佐倉市岩富町528-1 TEL.043-498-0765

内田端山越遺跡 (佐倉市 縄文、古墳、奈良・平安時代)

飯塚荒地台遺跡 (佐倉市 古墳時代)

西御門新堤遺跡 (佐倉市 縄文、古墳、奈良・平安時代)

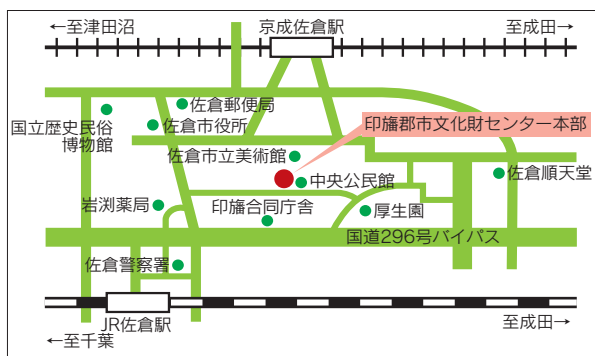
宮内芋戸遺跡 (佐倉市 古墳時代)

宮内南台遺跡 (佐倉市 縄文、奈良・平安時代)

井野長割遺跡 (佐倉市 縄文時代)

《お知らせ》

※上記の発掘現場、室内作業は見学できます。ご期待に添えない場合もありますので、かならず、事前にご連絡ください。詳細は本部へお問い合わせを!



平成16年10月15日 043(485)9871 043(484)0126(代) 043(484)0126(代) 千葉県佐倉市錦木町198-3 〒285-0025 千葉県佐倉市錦木町198-3 TEL. 043-484-0133



四街道市前原No.2遺跡 (第4地点)



1号方形周溝状遺構全景(写真1)

須恵器坏出土状況(写真2)

前原No.2遺跡は印旛沼に注ぐ鹿島川の支流である小名木川の西岸、標高約29mの台地上に位置しています。第4地点の発掘調査では、旧石器時代から縄文時代早期の遺物包含層や縄文時代の土坑、奈良・平安時代の方形周溝状遺構などが発見されていますが、今回は奈良・平安時代の方形周溝状遺構の調査成果について紹介します。

遺跡からは4基の方形周溝状遺構が検出されています(航空写真参照)。方形周溝状遺構は「方形区画墓」や「方形墳墓」などとも呼称される墓で、周溝により区画するという形態は、前時代の墓である古墳と同様です。伝統的な葬制を色濃く残しているといえるでしょう。

規模は1辺7m程で、4基ともほぼ同一の主軸方向を示しています。なかには、方台部中央に埋葬施設と考えられる土坑(長軸2.05m×短軸0.85m)が見ついているものもあります(写真1)。土坑の覆土上層からは灰釉陶器長頸壺がバラバラに壊れた状態で出土しており、埋葬の際に土器を破碎するという葬送儀礼を行った可能性が考えられます。

また周溝内からは奈良時代後半(8世紀後半)と想定される須恵器坏が据え置かれた状態で出土しました(写真2)。遺物は周溝底面から10cm程高い位置から発見されているため、お墓を構築した後に周溝がある程度埋まった段階で置かれたと考えられます。想像を逞しくするならば、この墓にお参りにきた人が埋葬者を弔うために、供物を入れた須恵器坏を捧げたと考えることができるかもしれません。

わがった!

四街道市
権現堂遺跡



弥生から古墳へ

弥生時代は稲作と金属器の時代です。いずれも中国大陸や朝鮮半島からもたらされた文化の要素です。まず九州地方北部に上陸し、次第に東方に伝播され、およそ2,000年前の弥生時代中期後半には、印旛沼の南岸地域にも西方の文化様式を持った大きな集落が出現します。

その文化要素の一つに方形周溝墓があります。四隅に溝を配した区画墓で、中央に埋葬主体部があります。墓地とされたところには連続して造られ、群集します。ムラの人々が皆同じ方法で順次埋葬されていったことがわかります。

これに対して、古墳は被葬者も限られ、個別に存在することが多いのです。

このように、弥生時代から古墳時代への移り変わりは、集団墓から単独墓への変容が一つの目印と言えます。

稲作の開始と金属器の普及は、灌漑などの土木技術の発展とともに、より多くの人数による集団労働を必要としました。共同作業にはリーダーが必要です。そして、耕地の拡大は、ムラをクニへと発展させます。

方形周溝墓は、集団墓から、より規模の大きい単独墓へと変わっていくのです。このことから突出した強い権力者の発生を想定できるでしょう。権現堂遺跡の方形周溝墓はまさに古墳時代の始まりを示しているのです。



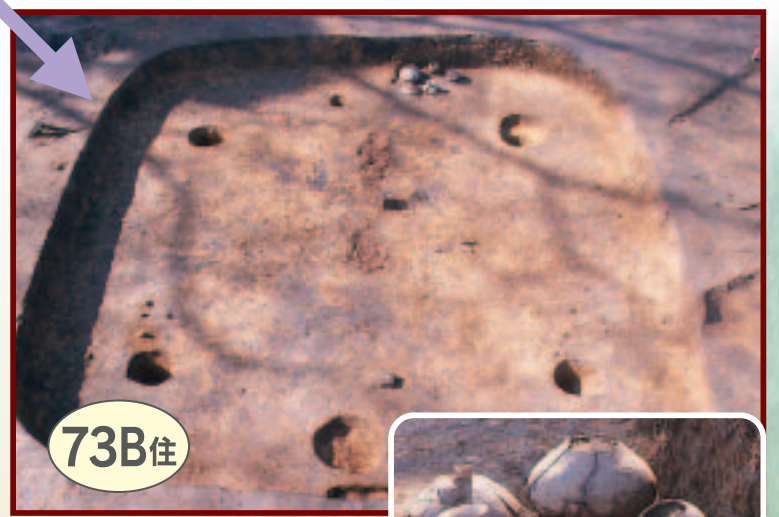
方形周溝墓



方形周溝墓出土遺物



67住
弥生時代の竪穴住居



73B住
古墳時代の竪穴住居

